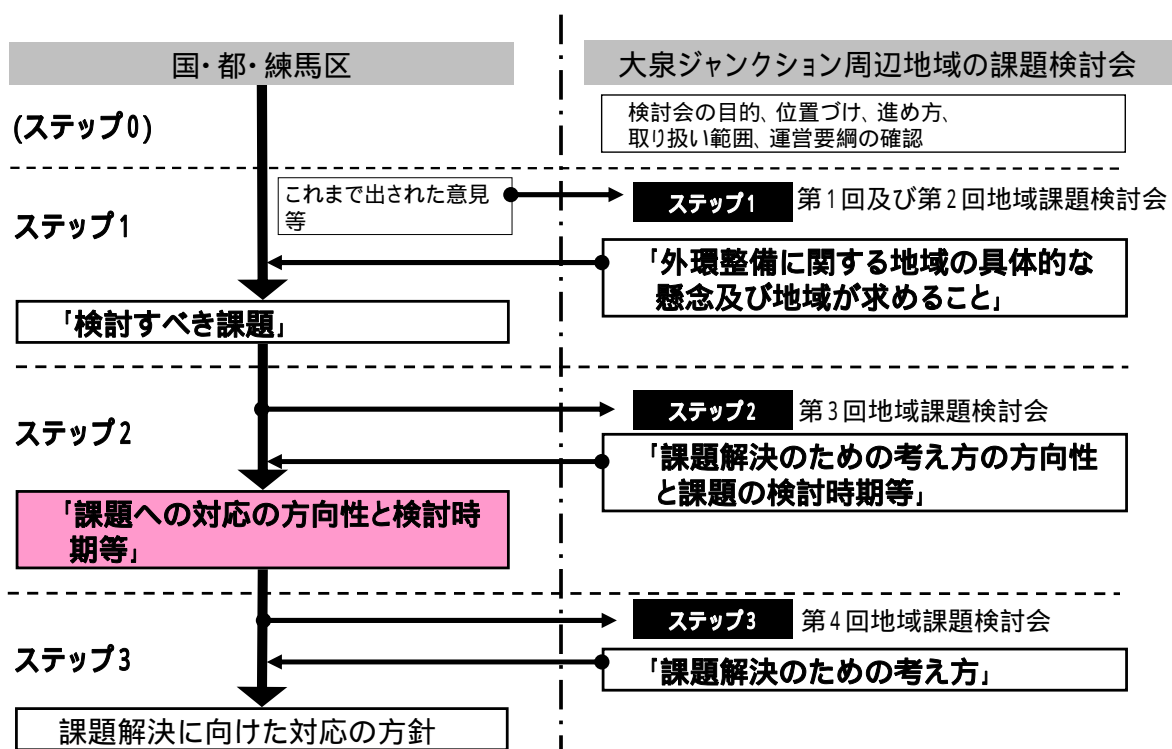


ステップ 2-2

課題への対応の方向性と検討時期等（案）

- ・ 外環計画が具体化した際の大泉ジャンクション周辺地域の基本的な方向性と、課題への対応の検討時期を整理したもので、「課題解決のための考え方の方向性と課題の検討時期等」を受けて、主催者としての現時点での認識を示したものです。



大泉ジャンクション周辺地域の課題検討会

課題への対応の方向性と検討時期等（案）

【本資料について】

- ・本資料は、外環計画が具体化した際の大泉ジャンクション周辺地域の基本的な方向性と、課題への対応の検討時期を整理したもので、大泉ジャンクション周辺地域課題検討会のステップ 2 の成果『課題解決のための考え方の方向性と課題の検討時期等』を受けて、主催者としての現時点での認識を示したものです。
- ・なお、本資料は今後の更なる意見を踏まえて更新します。

平成 20 年 10 月 6 日

大泉ジャンクション周辺地域の課題検討会 主催者

(国土交通省・東京都・練馬区)

『課題への対応の方向性と検討時期等(案)』の取りまとめについて

- 大泉ジャンクション周辺地域の課題検討会では、これまで様々なご意見やご提案を頂き、既にその背景にある懸念や期待などを『検討すべき課題(案)』として整理したところです。
- 『課題への対応の方向性と課題の検討時期等(案)』では、当検討会「ステップ2」での議論の成果である『課題解決のための考え方の方向性と課題の検討時期等』を受けて、現時点において主催者が考える『検討すべき課題』への対応の方向性を記しております。

作成にあたっては、対応の考え方やアイデアとその背景にある課題を踏まえ、課題に対する対応について計画の要素（検討時期や構造の位置）ごとに分類・整理しました。
- 『課題への対応の方向性と検討時期等(案)』の内容について、第4回の検討会で追加・修正等のご意見を頂き、そのご意見を踏まえ更新するとともに、この『課題対応への対応の方向性と検討時期』に基づき、『課題対応の方針』を取りまとめてまいります。

検討時期は、計画、調査、工事、管理の4つで整理しています。

大泉ジャンクション周辺地域の課題検討会

課題への対応の方向性と検討時期等(案) 目次

0．本資料各項目の構成について

1．計画	1
(1) トンネル部	
(2) ジャンクション・インターチェンジ部	
(3) 環境施設帯	
(4) 換気所	
(5) 周辺部	
(6) 八の釜憩いの森	
2．調査	11
3．工事	13
4．管理	15
5．その他	16
(1) 用地・補償	
(2) 検討の進め方など	

0. 本資料各項目の構成について

本資料の各項目は、次の ～ の部分から構成しています。

1. 計画 (1) トンネル部 【課題への対応の方向性】 ・トンネルからの振動、地盤沈下など生活環境への影響、白子川の河川水や地下水など自然環境への影響を可能な限り低減 ・災害や事故発生時における道路利用者や地上部周辺地域への安全性の確保 ・火災や地震など災害時等の適切な施設運用と維持管理 ・環境等への影響が確認された場合の適切な対応 ●各グループのまとめ ・事故が発生した場合に安全に避難ができるようにするなど、トンネル部の安全性が確保されるように。(A) ・災害や事故時の避難経路を追加で確保しトンネル部の安全性を高めるとともに、換気所の負担を沿線全体に分散し、大気への影響が抑えられるように。(H) ・非常時の対応などを十分検討、準備して、大深度のトンネル部の安全性の確保を。また、浅深度トンネル部の地上部が陥没するなどといったことが生じないように。(J) ■関連する「検討すべき課題」 【環境】 ・換気所やジャンクションの周辺地域での騒音や振動への懸念 ・白子川の河川水への影響についての懸念 ・地下構造物の影響により地下水が遮断されることについての懸念 ・地下水の変化に伴う地盤の沈下が起こるのではないかと懸念 ・環境に影響が生じた場合への対応についての懸念 【安全・安心】 ・トンネル内での火災や地震など災害時の対応や避難方法についての懸念	・・・ ・・・ ・・・ ・・・
--	---

計画の要素（検討時期や構造の位置）

各項目は、計画の要素（検討時期や構造の位置）ごとに課題への対応の方向性()を分類・整理しています。検討時期は、計画、調査、工事、及び管理の4つの検討時期で整理しています。

課題への対応の方向性

地域課題検討会のステップ1の主催者側の成果『検討すべき課題』()及び地域課題検討会各グループのまとめ()を踏まえて、計画の要素(対応の段階及び構造の位置)毎に、課題対応の基本的な方向性を主催者として整理したもの。

各グループのまとめ

地域課題検討会のステップ2の成果『課題解決のための考え方の方向性と課題の検討時期等(案)』から、計画の要素(対応の段階及び構造の位置)毎に、各グループの意見のまとめを引用したもの。末尾に()でグループ名を付記しています。

関連する「検討すべき課題」

各計画の要素(対応の段階及び構造の位置)毎に、関連する「検討すべき課題」を列記したもの。

1 . 計画

(1) トンネル部

【課題への対応の方向性】

- ・トンネルからの振動など生活環境への影響、白子川の河川水や地下水など自然環境への影響を可能な限り低減
- ・災害や事故発生時における道路利用者や地上部周辺地域への安全性の確保
- ・火災や地震など災害時等の適切な施設運用と維持管理
- ・環境等への影響が確認された場合の適切な対応

●各グループのまとめ

- ・事故が発生した場合に安全に避難ができるようにするなど、トンネル部の安全性が確保されるように。(A)
- ・災害や事故時の避難経路を追加で確保しトンネル部の安全性を高めるとともに、換気所の負担を沿線全体に分散し、大気への影響が抑えられるように。(H)
- ・非常時の対応などを十分検討、準備して、大深度のトンネル部の安全性の確保を。また、浅深度トンネル部の地上部が陥没するなどといったことが生じないように。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・換気所やジャンクションの周辺地域での騒音や振動への懸念
- ・白子川の河川水への影響についての懸念
- ・地下構造物の影響により地下水が遮断されることについての懸念
- ・環境に影響が生じた場合への対応についての懸念

【安全・安心】

- ・トンネル内での火災や地震など災害時の対応や避難方法についての懸念

(2) ジャンクション・インターチェンジ部

【課題への対応の方向性】

- ・ジャンクションやインターチェンジ、大泉街道と目白通りを結ぶ道路、トンネル坑口からの大気質、騒音、振動、低周波音、地盤沈下等の生活環境への影響の低減
- ・白子川の河川水、地下水、生態系などの自然環境への影響の低減
- ・ジャンクションやインターチェンジ出入口における交通処理の円滑化
- ・周辺地域の景観や風景との調和
- ・地域のコミュニティが分断されないよう、生活道路などの移動利便性の確保など、高架下などの有効利用
- ・三原台中学校、泉新小学校等の通学路等における交通の安全性の確保

●各グループのまとめ

- ・開削部を極力少なくすると、工事中の騒音、地下水、移転の影響をできるだけ抑えられるように。また、出入口付近を緑化するなどにより、潤いのある空間の創出を。(A)
- ・関越上り方面の出口を新たに設ける等、外環整備とあわせて地域の交通利便性が高まるように。(B)
- ・関越道からの出口を大泉インター付近に設けるなど、ジャンクション周辺地域の交通の利便性が高まるように。また、地下化や蓋掛けにより開削部分を小さくする事などにより、振動、騒音等の影響がないように。壁面緑化、防音壁の色調、素材等の検討等により、周辺地域の景観に配慮するとともに、街路照明による周辺環境への影響にも配慮を。(C)
- ・外環整備とあわせた電柱地中化、ジャンクション構造部を周辺地域と調和したデザインにする等、この地域の宝としてより良い景観の創出を。外壁を緑化すること等によりジャンクション部に熱がこもらないように。また、周辺の交通の利便性が高まるとともに、周辺の生活に影響が少なくなるようなジャンクション部に。(D)
- ・ジャンクション部に集中する排気ガスへの影響が抑えられるように。(E)
- ・地上部の大気質への影響は極力小さくなるように。(G)
- ・料金所での渋滞をなくすために料金所を設けないなど、周辺地域への大気質への影響が極力小さくなるように。路面の素材の検討など、路面から生じる騒音が小さくなるように。(G)
- ・排ガス公害の元になる出入口渋滞などの影響を低減するように。(H)
- ・周辺地域の景観に配慮してジャンクション構造が殺風景にならないように。大通りを横断する歩行者が安全で円滑に移動できるように。(H)
- ・外環への出入口の位置を変更するなどにより、地域の交通に影響が生じないように。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・大泉街道と目白通りを結ぶ計画の道路の通過交通についての懸念

【環境】

- ・周辺に教育施設が多く、換気所やジャンクション、インターチェンジ等の施設からの大気質への影響についての懸念
- ・ジャンクションにおける減速・加速や、料金所における渋滞、停止・発進による排気ガスの大気質への影響についての懸念
- ・換気所やジャンクションの周辺地域での騒音や振動への懸念
- ・白子川の河川水への影響についての懸念
- ・地下水の変化に伴う地盤の沈下が起こるのではないかと懸念
- ・ジャンクション周辺において緑が整備されることへの期待
- ・換気所やジャンクション構造物が地域の景観と調和がとれるのかとの懸念
- ・道路照明による周辺環境への影響についての懸念

【まちづくり】

- ・既存の生活道路の機能が確保されるのかとの懸念
- ・三原台中学校、泉新小学校などの学区や通学路が分断されるのではないかと懸念

【安全】

- ・生活道路の交通量が増え、安全性が低下するのではないかと懸念

(3) 環境施設帯

【課題への対応の方向性】

- ・ 環境施設帯を活用し生活道路等の代替機能を確保
- ・ 緑豊かな空間の形成による景観等への影響を低減
- ・ 地域の人が交流できる憩いの場の創出、生活道路などの利便性の確保など、周辺地域のまちづくりと連携した環境施設帯の有効利用

●各グループのまとめ

- ・ 公園など、樹林地や避難所の整備等、地域の役に立つ活用を。外環による道路の分断の影響を極力抑えるために、開削部を狭くするとともに、歩行者用の橋を架けることなどによる代替機能の確保を。(A)
- ・ 環境施設帯に道路を整備することなどにより、地域分断を解消し、防犯面に配慮しつつ、スーパーなど生活利便施設への動線と通学路の確保を。(B)
- ・ 開削部分は極力蓋掛けすることで環境施設帯部を増やすようにするとともに、環境施設帯を緑地や商店街にする、子供が楽しめる場にする等、地域にとって有効な活用を。外環整備により分断されてしまう生活道路に対しては、交通弱者も含めた利用者が安全に便利に利用できる観点で代替機能の確保を。(C)
- ・ 生活道路や橋の整備などにより、外環が整備されても地域や通学路の分断が生じないような活用を。(D)
- ・ 地域での利用施設を整備し、コミュニティの分断解消を図る。(E)
- ・ 環境施設帯の利用計画案を示してほしい。(F)
- ・ 両側に自由に行き来ができるように。(G)
- ・ 地域の幹線道路の代替機能の確保や生活道路が行き止まりにならないように。(H)
- ・ 現在の水脈を活かしながら清水と森のある緑地帯を創出し、地域住民が交流できるような場づくりを。さらに、生活道路の確保により地域が分断されないように。(I)
- ・ 環境施設帯は、利用施設の整備をするなど、地域の憩いの空間に。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・周辺に教育施設が多く、換気所やジャンクション、インターチェンジ等の施設からの大気質への影響についての懸念
- ・ジャンクションにおける減速・加速や、料金所における渋滞、停止・発進による排気ガスの大気質への影響についての懸念
- ・ジャンクション周辺において緑が整備されることへの期待
- ・換気所などの構造物が周辺景観に配慮したものとなることへの期待
- ・コストを優先して環境対策が軽視されるのではないかと懸念

【まちづくり】

- ・環境施設帯を利用して、生活道路や緑地などを確保することへの期待
- ・既存の生活道路の機能が確保されるのかとの懸念
- ・三原台中学校、泉新小学校などの学区域や通学路が分断されるのではないかと懸念

【安全・安心】

- ・環境施設帯の植栽で見通しが悪くなることによる治安の悪化への懸念

(4) 換気所

【課題への対応の方向性】

- ・トンネル内を走行する自動車からの排出ガスを換気所で適切に処理
- ・最新技術の換気所への活用の検討
- ・換気所からの騒音、振動などの生活環境への影響の低減
- ・火災や地震など災害時や停電、故障時等の適切な施設運用と維持管理
- ・周辺の地形や地域の景観に配慮した換気所の高さやデザインの検討
- ・環境等への影響が確認された場合の適切な措置検討、十分な情報提供

●各グループのまとめ

- ・外環整備後に交通量が大幅に増えてしまった場合の対応等も含めて、換気所や出入口等の集中により、周辺の大気質に影響が及ばないように。(A)
- ・将来的な車両の性能向上、社会経済情勢の変化などを踏まえつつ、換気所のコンパクト化や排ガス処理等の最新技術の導入などについても検討することなどにより、周辺地域の大気環境が良好に保たれるような換気計画を。災害、停電、換気所の故障などによる大気質への影響の軽減(リスクの分散)を。また、騒音が抑えられ、周辺の景観と調和した換気所となるように。(B)
- ・換気所の分散、高さの検討、横流換気方式の導入などにより、換気所に集められる外環本線の排気ガスや粉塵が換気所で十分に処理され、処理した空気による周辺地域への影響がないように。(C)
- ・脱硝装置設置などの検討や換気所の定期的なメンテナンスにより、良好な大気環境が確保されるように。建物や煙突を丸くしたり、地味な配色にする等のデザインを検討することで、風や地域の景観への影響が小さくなるように。(D)
- ・周辺地域の健康被害を増大させないよう、換気方式を縦流方式から横流方式に変更するなど、見直しを検討するべき。(E)
- ・故障時のリスク対応として分散させる。(E)
- ・三原台の清掃工場計画も合わせた環境対策が必要である。(E)
- ・換気所を分散設置したり、高さや換気計画等の工夫の検討により、周辺地域の空気を汚さず、健康被害に結びつかない計画案を示してほしい。(F)
- ・換気方式の変更や換気所の分散設置の検討などにより、この地域に排気ガスが集中して周辺住民に健康被害が及ばないように。(G)
- ・インターチェンジやジャンクションのない地域に配分することや、最新技術の浄化装置を採用するなど、換気所からの大気汚染に関する不安を取り除くように。また、植栽などにより景観に配慮を。(H)
- ・『換気施設の分散・高さ・排気ガスの処理方法等の再検討』や『換気設備稼働時の適切な維持管理や換気設備故障時のリスクへの確実な対応』によって、周辺地域の大気環境が悪化しないように。(I)
- ・計画地の地形が低いことから、換気施設の位置を検討したり、また換気所を分散配置すること等により、地域の大気環境が極端に悪化しないように。また、換気所の故障などのリスクにも対応できるように。(J)

■ 関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ 周辺に教育施設が多く、換気所やジャンクション、インターチェンジ等の施設からの大気質への影響についての懸念
- ・ 換気所の計画地は周辺より低くなっており、換気塔の高さが不十分ではないかとの懸念
- ・ 換気所の性能や維持管理方法、故障時の対応等についての懸念
- ・ 換気所やジャンクションの周辺地域での騒音や振動への懸念
- ・ 環境に影響が生じた場合への対応についての懸念

【安全・安心】

- ・ トンネル内での火災や地震など災害時の対応や避難方法についての懸念

【計画検討の進め方】

- ・ 最新の技術が活用されることへの期待
- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待

(5) 周辺部

【課題への対応の方向性】

- ・ 目白通りや大泉街道など周辺部の幹線道路や、生活道路などの交通量が増加した場合の交通安全性の確保、交通混雑や住環境への影響に対する適切な対応
- ・ 地域コミュニティの分断や、土支田通り、東映通り、大泉街道を通るバスルートなど、地域の主要施設への移動の利便性に配慮し、生活動線の代替機能を確保
- ・ 白子川や石神井公園など周辺地域における動植物などの生態系や緑地、樹林などの自然環境への影響に対する対応
- ・ 外環整備に伴う、周辺のまちづくり計画への対応

●各グループのまとめ

- ・ 外環整備にあわせて地域全体の交通計画を検討したり、幹線道路を整備すること等で、幹線道路の渋滞や地区内への通り抜け交通の流入を抑えるとともに、バス路線への影響が極力小さくなるように。外環の周辺地域の動植物の生態系への影響にも配慮を。(A)
- ・ 目白通りや大泉街道など周辺地域の主要道路の渋滞が悪化したり、新たな商業施設の立地にとともなう交通量増加による住環境への深刻な影響がないように。また、集会場などの地域の主要な施設への動線確保を。(B)
- ・ もみじ山付近の側道のあり方の検討や、高速 10 号線を優先的に進めるなど、外環整備とあわせて地域の交通利便性が高まるように。また、白子川をはじめ周辺の自然環境への影響が抑えられるように。(C)
- ・ 新座インターチェンジに出入口を設ける、地上部の街路の整備をすすめる等により、周辺地域に過度の交通が集中しないように。(D)
- ・ 地域への通過交通流入による渋滞、排気ガス、騒音などの環境悪化、安全性の低下が生じない交通対策を講じる。(E)
- ・ 交通ネットワークの中で、どのように周辺の交通渋滞の課題を解決していくのかを検討して示してほしい。(F)
- ・ ジャンクション付近の道路の計画を検討することで、高齢者がより移動しやすくなるような配慮を。(G)
- ・ 外環整備に合わせた幹線道路の整備や、関越道を首都高までつないで地域に用のない車を通過させること等により、地域の渋滞緩和や交通安全性の向上につながるように。(H)
- ・ 生活道路への通り抜け交通の流入や渋滞、高速道路へのアクセス性など、外環整備とあわせて地域が抱える交通問題の解決につながるように。(I)
- ・ 外環整備と連動した地区の交通計画の検討や道路の整備により、交通渋滞や通学路の安全確保など、地域の交通問題が解決されるように。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・生活道路の交通量が増え、住宅街での渋滞の発生や住環境の悪化への懸念
- ・生活道路における渋滞や安全性が改善されることへの期待
- ・目白通りや目白通りインターチェンジ周辺をはじめとした周辺交通の混雑についての懸念

【環境】

- ・石神井公園など周辺地域における動植物などの生態系への影響についての懸念
- ・ジャンクション周辺において緑が整備されることへの期待

【まちづくり】

- ・外環の整備に伴い、周辺のまちづくりの計画がどのようなものかとの懸念
- ・外環整備によって、住環境がよくなることへの期待
- ・地域コミュニティの分断への懸念
- ・土支田通りや東映通り、大泉街道を通るバスルートの廃止や変更など交通利便性の低下への懸念

(6) 八の釜憩いの森

【課題への対応の方向性】

- ・八の釜憩いの森について、地元住民等の意見を聴くと共に、地域の特長や現在の自然環境を考慮した環境保全措置の検討
- ・八の釜の湧水について、地下水や地質の状況などの詳細な調査に基づく環境保全措置の検討
- ・八の釜憩いの森の自然や景観に配慮し、緑と触れ合え、地域の人が交流できる憩いの場の創出

●各グループのまとめ

- ・八の釜の自然に湧き出る湧水と緑の保護を。(A)
- ・地域にとって深い意味のある場所となっている八の釜憩いの森の有効な保全・代替の対応を。(B)
- ・八の釜憩いの森などに代表される地域の特長が残せるような活用を。防犯面にも配慮された空間となるように。(C)
- ・移転なども含め、八の釜憩いの森の環境を残せるように。(D)
- ・地域の財産である八の釜憩いの森や湧水を保全する最善策を検討すべき。代償施設については実現性を具体的に示した上で議論する。(E)
- ・八の釜の自然をどのくらい保全できる計画が立てられるのか。(F)
- ・八の釜憩いの森の代償など、緑と自然豊かな空間の確保を。(G)
- ・八の釜の自然環境は移転による保全・活用を。(H)
- ・八の釜の移転を前提としない線形や構造の変更により、八の釜の豊かな環境が保全さ

れるように。八の釜を移転せざるを得ない場合を想定した早期の代替地の調査により、移転先の目安だてを。八の釜を移転せざるを得ない場合は、早期に移転先の調査や代替案の作成を行い、現状の景観の継承、同等の自然の確保ができるように。(I)

- ・ 八の釜憩いの森の環境が残されるように。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ 八の釜憩いの森の湧水が消失することへの懸念
- ・ 八の釜憩いの森の緑、動植物への影響、憩いの場が消失することへの懸念
- ・ 八の釜憩いの森の湧水について詳細な調査が不足しているのではないかと懸念
- ・ 八の釜憩いの森の代償措置についての懸念

２．調査

【課題への対応の方向性】

- ・大気質、地質、湧水や地下水、動植物等の影響の適切な把握、十分な情報提供
- ・PM_{2.5} など環境基準に定められていない項目への対応
- ・環境への影響が確認された場合の適切な対応

●各グループのまとめ

- ・外環整備前後の大気質への影響の変化を正確に把握できるように。また、生活用水として活用している地下水の水涸れや水質の影響、および白子川の流量などへの影響を把握できるように。調査にあたっては、関係機関との連携や清掃工場など周辺施設からの影響を考慮すること。(A)
- ・調査をより厳密に行い、外環整備に伴う大気質への影響の変化に見落としがないように。(B)
- ・最新のデータやより詳細な調査により、地下水、大気質などの影響を詳細な把握を。また、平均値のデータではなく、地域で最も危険な状況を考慮し、広域的視野、かつ複合的な視点に立った調査を。
PM_{2.5} 等も含め、周辺住民の健康に大きな影響が生じないように。(C)
- ・大気質による健康被害が増大しないよう、長期にわたる健康への影響を検証する。地盤、湧水、生態系などの現状調査を十分行う。
調査、検証は継続的に行い、内容は市民に情報開示する。(E)
- ・排気ガスの影響が、地形条件や風力、風向、風速などによってどのように影響するかを見極めるため、詳細で継続的(今～完成後)な定点観測を行ってほしい。(F)
- ・大気環境の悪化にともなう健康被害が生じないようにするためにも、地域の大気環境の状況を随時把握できるように。(G)
- ・天候による変動や地形の特性を踏まえた定点観測等により、大気への影響が基準を上回らないように。(H)
- ・大気状況の観測やボーリング調査などにより、大泉一帯の大気質、地下水、地質の状況の詳細な把握を。(I)
- ・環境等への影響調査、対策については、地表部や大深度だけでなく、途中の浅深度部分も対象とし、結果を地域に知らせるように。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・周辺に教育施設が多く、換気所やジャンクション、インターチェンジ等の施設からの大気質への影響についての懸念
- ・換気所の計画地は周辺より低くなっており、換気塔の高さが不十分ではないかとの懸念
- ・地下構造物の影響により地下水が遮断されることについての懸念
- ・地下水の変化に伴う地盤の沈下が起こるのではないかと懸念
- ・生活用水として利用している地下水への影響についての懸念
- ・PM2.5 など現在の環境基準で定められていない項目についての懸念
- ・環境に影響が生じた場合への対応についての懸念

【計画検討の進め方】

- ・地質や地下水などの調査が不足しているのではないかと懸念

3 . 工事

【課題への対応の方向性】

- ・ 工事に伴う大気質や騒音・振動、粉じん、土地の隆起や地盤沈下などの生活環境、地下水や土壌などの自然環境への影響を低減
- ・ 西武池袋線の連続立体交差事業など他の工事と時期が重なった場合の地域の交通対策への対応
- ・ 工事車両に伴う生活道路の機能や安全性の確保、交通の混雑の影響の低減
- ・ 工事期間中の残土や地下埋設物への適切な対処
- ・ 工事中の環境等への影響が確認された場合の適切な措置の検討
- ・ 工事の期間、工事車両に関する計画など工事内容等の十分な情報提供

●各グループのまとめ

- ・ 工事車両の集中にともなって、交通事故の発生や交通渋滞が悪化しないように。また、工法等の検討により、騒音や地下水等の環境影響が抑えられるように。(A)
- ・ 工事車両が集中することによる生活道路の渋滞や、騒音、振動や排気ガスの影響がないように。工事期間中に道路が分断されてしまうなど、地域の交通利便性や安全性への影響がないように。また、工事にともなって地下埋設物等に影響が及ばないように。(B)
- ・ 工事車両の適切な運行管理を実施する等により、工事期間中に工事車両が及ぼす環境影響や安全性の低下に配慮を。地域住民の意向に配慮して。(C)
- ・ 工事車両の運行時間の制限などにより、騒音への影響を少なくするとともに、登下校時間帯の児童の安全性が確保されるように。また、工事中的影響への対応について事前に情報提供を。(D)
- ・ 工事中也地域の良好な生活環境が保たれるよう、搬出残土や粉塵などへの対策を行う。工事中也生活道路の機能を確保する。西武池袋線の連続立体交差事業など、他の工事と時期が重なった場合、地域の交通対策を行う。(E)
- ・ 工事中のほこりや排気ガスなどの環境影響、工事車両による大気、振動などの環境影響や事故が心配。工事期間等、工事やその影響などに関して適切な情報提供をしてほしい。(F)
- ・ 工事期間中にも地下水への影響が生じないように。(G)
- ・ 工事計画を業者任せにせず行政が監視し、責任ある対応を。工事車両の専用道路の確保など安全面からの配慮を。生活道路の安全で円滑な通行の確保を。(H)
- ・ 工事車両の生活道路への流入を防いだり、時間帯を限定したり、歩行者空間を設けたりするなど、工事車両の集中により地域の安全性が低下しないように。また、開削部分に仮設橋を設けるなど、工事期間中に失われる生活道路の代替機能の確保を。周辺地域に対しては、工事に関する情報の提供を。(I)
- ・ 工事車両の進入規制をするなど、工事にともなう大型の工事車両の集中による影響を抑えられるように。また工事にともなう地域分断の影響が小さくなるように。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・環境に影響が生じた場合への対応についての懸念

【工事中】

- ・工事車両による目白通りや大泉学園通り、大泉街道などの渋滞や安全性低下への懸念
- ・工事期間中の生活道路機能の確保についての懸念
- ・工事に伴う騒音・振動や粉塵、工事用車両による排気ガス等による環境への影響についての懸念
- ・工事に伴う地下水、土壌、水質への影響についての懸念
- ・工事に伴う土地の隆起や地盤沈下についての懸念
- ・工事期間中の地下埋設物への対処についての懸念
- ・工事中における子供や高齢者などの交通の安全性の確保についての懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

4 . 管理

【課題への対応の方向性】

- ・ 大気質、地下水などの各段階での適切なモニタリングの実施、適切な計画実施への配慮、十分な情報提供
- ・ 供用後の大気質や、騒音・振動等の生活環境、地下水や、河川水などの自然環境への影響の確認
- ・ 換気所の適切な点検、維持管理
- ・ 環境等への影響が確認された場合の適切な措置検討、十分な情報提供

●各グループのまとめ

- ・ 整備後に大気質に影響が生じた場合や人体に影響を及ぼした場合、行政が柔軟に対応できるように。(C)
- ・ 整備後にも流入規制など様々な対策を講じる等により、大気への影響が生じないように。(G)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ 周辺に教育施設が多く、換気所やジャンクション、インターチェンジ等の施設からの大気質への影響についての懸念
- ・ 換気所の性能や維持管理方法、故障時の対応等についての懸念
- ・ 換気所やジャンクションの周辺地域での騒音や振動への懸念
- ・ 白子川の河川水への影響についての懸念
- ・ 地下水の変化に伴う地盤の沈下が起こるのではないかと懸念
- ・ 環境に影響が生じた場合への対応についての懸念

5 . その他

(1) 用地・補償

【課題への対応の方向性】

- ・用地等の補償に関し、地権者のニーズに応じた丁寧な対応と十分な情報提供

●各グループのまとめ

- ・生活設計が立てられるよう、工事の時期などのスケジュールを明確に。(A)
- ・商売への影響が極力生じないように。(D)
- ・地権者や地域利用者等に対して情報開示・提供し、意向を把握しながら進める。(E)
- ・計画内容や移転・補償などについて、地域住民が常に相談できる体制を。(H)
- ・苦しい状況に置かれている計画地内の地権者や、健康への影響や騒音・振動の影響が懸念される地域住民など、様々な立場の住民へ配慮を。(I)

■関連する「検討すべき課題」

【用地・補償】

- ・移転、代替地の確保、補償などへの懸念
- ・地権者へ用地補償についてわかりやすい説明や丁寧な対応がなされるのかとの懸念

(2) 検討の進め方など

【課題への対応の方向性】

- ・最新のデータ等を活用した適切な計画の検討
- ・最新技術の活用を検討
- ・地域の住民のみなさんへの十分な情報提供および、適宜適切にご意見をお聴きしながら今後の進め方を検討
- ・現地見学など換気計画に関する十分な情報提供による住民の不安への対応

●各グループのまとめ

- ・排気ガスへの対応方法などを正確に伝え、市民の不安が払拭されるように。(A)
- ・換気の方式や換気所の性能、外環の必要性、八の釜の代替措置、外環の事業着手の時期など、地域住民が不安に思っていることに対する十分な情報提供と理解・解決のための対話を。(B)
- ・換気所の高さ、換気方式、今後のスケジュールなど、住民の不安を払拭するための情報提供を。処理方法、換気方式の十分な説明を。(C)
- ・長期的な視点でこの地域に安心して住み続けることができるように。また、計画に住民の意見が反映されるように。(D)
- ・換気所の性能、八の釜憩いの森の保全・代償措置、交通量の変化、外環ノ2の計画、首都高10号線の計画、トンネル部の安全確保、地下水への影響など、地域の心配ごと

に対し、市民が理解し納得できる的確な情報開示・提供を行う。(E)

- ・換気処理、八の釜への対応、交通量、工事による影響などの地域が知りたい情報が入手できるようにしてほしい。周辺の住民がもっと関心を高めるような情報発信が必要。(F)
- ・トンネル内における事故や火災時の対応方法や、大気環境への影響などの情報が入手できるように。(G)
- ・換気所計画に関する内容や市民に公開されている換気に関する様々なデータの分かりやすい説明を。換気方式の異なるトンネルや換気所の現地見学を行い、市民が換気所の方式を検討するための機会の創出を。
八の釜憩いの森への対応や健康への影響を明らかにするなど、地域の懸念が払拭されるような情報の提供を。外環既設部分の政策評価により、事業の有効性の評価を。外環の既設供用区間での様々なデータを活用した周辺環境の影響評価を。
外環整備とあわせて周辺の用途地域を変更する場合など、周辺のまちづくりに関する情報提供を。(I)
- ・外環ノ2の状況、八の釜憩いの森への対応、首都高10号線への対応などの住民が心配する要素に対する十分な情報提供を。(J)

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・目白通りなどの混雑改善や地域の利便性向上への期待
- ・大泉が終点となっていた外環が延伸することによる、利便性の向上への期待

【環境】

- ・環境に影響が生じた場合への対応に関しての懸念
- ・コストを優先して環境対策が軽視されるのではないかと懸念

【まちづくり】

- ・外環の整備に伴い、周辺のまちづくりの計画がどのようなになるのかとの懸念

【計画検討の進め方】

- ・外環の整備効果が十分発揮されるのかとの懸念
- ・最新のデータ等を踏まえた交通量推計による計画となっているのかとの懸念
- ・外環ノ2の計画検討スケジュールが明らかでないことについての懸念
- ・最新の技術が活用されることへの期待
- ・地域課題検討会での意見が計画に反映されないのではないかと懸念
- ・今後も地域の住民の意見を聴き、具体的な検討を行うことへの期待
- ・地域住民への十分な情報提供への期待